

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4391500016
法人名	有限会社 さかがわ
事業所名	グループホーム 優海
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4391500016
法人名	有限会社 さかがわ
事業所名	グループホーム 優海
所在地	熊本県天草市御所浦町御所浦3916-6 (電話) 0969-67-2550

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 サウス清香205		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(21年 1月 24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成	18年	12月	4日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤	3 人, 常勤換算	7.2

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月 24日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	天草市御所浦診療所・上天草総合病院・御所浦歯科診療所
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県南の離島に位置するホームには、高齢者福祉に対する運営者の熱い思いが込められている。生まれ育った場所で地域に支えられながらその人らしく生活する為の一役を荷いたいと開所に至っている。豊かな漁場から獲れる海産物と温暖な気候で作られる野菜や柑橘類など自然の恩恵が食卓に並び介護者と入居者がお互いをいたわり気づかいながら生活している。入居者の排泄支援の取り組みとして、日中の布パンツへの移行に力を入れ布で手作りの尿取りパットは職員と入居者の手縫いによるものである。島にただ一つのホームとして地域との関わりを大切にしながら自信を持って介護にあたっている姿は、立地条件なども払拭してしまうほどのたくましさを感じられる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を受けすぐに改善できる事を職員で話し合った。まずは、理念の共有と日々の取り組みに関して、毎朝の朝礼で唱和する事で職員の意識向上に努めた。又、職員を育てる取り組みで研修会の充実において、ホーム内の定期的な勉強会の開催によりレベルアップをはかった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、それぞれが自己を振り返る機会と謙虚に捉え全員で取り組み、最終的に管理者がまとめあげた。評価結果報告書も、家族や来訪者がもっと身近に関心を持ってもらえるように、読みやすく文字を拡大したり項目に合ったイラストを加えるなどを試みたいと意欲的である。実現が期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>多方面からの出席を得ている運営推進会議では、外部評価についての説明も行われている。この会議ではホームへの理解とホームが地域でできる事を提案し、多くの情報を得ることができ、入居者は地域の一員として様々な活動へ参加している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や、家族面会時を意見や要望収集の場と捉え、家族が気軽に話せる雰囲気作りに努めている。これまで特別な要望や意見は寄せられていないが、どんな些細なことでも早急に対応し家族との信頼関係に努めたいとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>年間目標に“地域間とのコミュニケーションを図る”を掲げこれまで以上に地域との交流につとめている、入居者は地域の方々との協力により様々な行事へ参加するなど地元で暮らす喜びを支援している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ゆとりある、ゆかいな生活のために』smile-笑顔で、slow-ゆつくりと、safety-安全を基本理念とし、本年度よりサブ理念を取り入れその年に力を入れたい事柄を職員で話し合いリビングに掲げている。サブ理念は“入居者間・職員間・地域間とのコミュニケーションを図る”とし地域の中で生活する喜びを支援している。		
2	2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの目に付く場所に掲示し、日々のケアの規範としている。職員は理念について日常的に話し合い、実践に向けた努力をしている。家族の理解を得る為には、先ず職員自身が生き生きとしていることとの認識のもと、啓発に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(秋まつり)や地元の小学校の運動会に入居者と共に参加したり、敬老会への参加はそれぞれの入居者の出身地へ出向き顔馴染みの関係維持に努力している。又、地域の清掃活動にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を受け出来る事から早急に改善に取り組んでいる。理念を唱和する事で職員の意識付けを行い一日のスタートとしている。又、新たに年間目標(サブ理念)を設定し地域との繋がりをより重要視した取り組みを展開している。今回の自己評価は全員で取り組みそれぞれが自己を振り返る機会と謙虚に捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域包括・民生委員・消防署・警察署・老人会・家族会代表者など多方面からの出席があり、ホームへの理解とホームが地域で出来る事などを提案し、様々な分野から広く情報を得る事で地域へ出る足がかりとするなどサービス向上へとつなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと電話でのやり取りを通じ相談に応じてもらうとともに、指導や助言を得て情報の共有に努めている。市の支所に外部評価の結果報告を行い入居者の訪問調査に立ち会っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や、毎月の利用料の請求時に手紙にて担当職員が入居者の現況を報告し預り金についても利用明細のコピーを添付し収支報告をしている。職員の離職や担当職員の変更時にも家族に対して説明が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時を意見や要望収集の場と捉え、家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見については全職員で共有しホーム運営に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職について家族へ報告し入居者にダメージを与えないようケアの充実に力を入れるとともに、法人の持つ別のグループホームより応援体制が取られている。</p>	
5. 人材の育成と支援					
	10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に1～2回ホーム内での勉強会や定期的に職員が交代で外部研修に参加しレベルアップを図っている。運営者や管理者は外部研修の重要性を認識しており、職員の研修の機会を確保している。</p>	
	11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に参加し相互のホーム見学や勉強会を行っている。今後も他のホームとの勉強会や相互交流の機会を増やして行きたいとしているが、気軽に足を運べる距離にホームがなく課題の一つとして捉えており、同法人のグループホームから職員の応援等もあり交流を図っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に自宅や入所施設を訪問し馴染みの信頼関係を作ったり、ホーム体験で入居者と食事を一緒にとり雰囲気を感じてもらい入居後の生活がスムーズに送れるよう支援している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者を人生の先輩として敬い、行事の際の郷土料理や保存食作り、菜園での苗の品選びや、収穫時期を教えてもらうなど一方通行にならない関係が構築されている。</p>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと一対一での対応を心がけ表情が変われば何かある事を察知し、入居者の目線に合わせ話を聞くようにしている。意思表示の困難な方は職員で情報を共有する時間を持ったり、身振り・手振りで感じたり、家族と連絡をとり把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活歴や家族からの聞き取り、本人の思いをプランに反映している。担当職員による入居者の日々の詳細を入居者の発した言葉でプランに表現している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎の見直しを行い入居者の状態変化に応じてその都度見直しが図られている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問理容や理美容資格者によるカット支援、日常的な買い物、受診など柔軟に対応している。又、法人の持つ別のグループホームとの職員協力体制も確立している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地理的環境もあり、かかりつけ医は市の診療所となっており、週一・二回の定期往診が行われている。薬の変更時は医師より家族へ報告がされている。島外での受診を必要とする入居者は家族の協力にて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より看取りを希望する家族と十分な話し合いのうえ受け入れを行い、家族と病院の協力で初めての看取りを支援した。運営者と職員(看護師)で医療に関するホームの体制を明確にし家族に説明し同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は“その人の家”と認識し掃除などは職員も行うが、本人のできる事は一緒に行い確認している。トイレ・居室入室の際は必ずノックする事や個人の記録はインシヤルとしたり、大切な書類は事務所にて管理するなどプライバシーに配慮した取り組みである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、本人のペースで自由な生活を支援している。食事が遅くなり次の食事に影響する時はおにぎりに対応するなど本人のペースに合わせながらも、健康管理には十分配慮し対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は一週間毎に入居者の希望や季節感を取り入れながら職員が作成している。毎週水曜日は、冷蔵庫内の確認も兼ねてある食材を使って調理している。食事の準備・片付けも一緒に行い、職員も入居者と同じものを同じ時間にとることで話題を共有し楽しい食事支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日支援している。拒否の方へも強要せず時間をおいたり、タイミングをみて職員の個人に合った声掛けにより最低週二回の入浴で清潔保持に努めている。柚子や菖蒲湯などの季節風呂や、入浴剤を使用し見た目や匂いでも楽しい入浴を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や洗濯物たたみ、掃除などの家事、菜園には幾種もの野菜が入居者とともに栽培され食材に活用されている。喫煙者へもコーナーを設け安全に配慮しながら支援している。訪問当日もエプロンをつけ手際よく包丁を使う女性入居者、しめ縄の準備の縄たたきに勢を出す男性入居者の姿を写真掲示より確認できた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買出しや犬(セラピー担当)の散歩、近隣の散歩や銀行への付き添い、ふるさとドライブなど天候や体調に配慮しながら入居者の希望に応じた支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害は全職員理解し、安全に十分配慮しながら自由に入出りできる環境を作り、鍵を掛けないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃より地元消防団、区長、地域の方々との交流に努め有事の際にも協力が得られるよう働きかけている。消防訓練実施の前に、近隣にも文章にて伝達し七名の参加者があり、避難後の入居者見守りが行われた。風水害に対するマニュアル等の作成を進める意向である。	○	職員は安全管理に対する必要性を十分認識している。風水害対応マニュアルの整備が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録に残し、水分も三食時の汁物、おやつや食事時のお茶、必要に応じた声かけにより水分確保に努め、食事形態も二度炊きやキザミ食、食欲の無い時は好物の赤飯を用意するなど個々の状態に応じた支援している。又、近隣施設の栄養士からアドバイスやカロリー計算などの協力が得られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光もよく天井の出窓により換気、手入れの行き届いた菜園が望めるリビングホールは、入居者の寛ぎの場所となっている。通路や洗面台には観葉植物や季節に応じたぬり絵・書初めなど入居者の作品や、イベントの写真が掲示され和やかな雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやクロゼットが備え付けられた居室は清潔に保たれ、家族の協力のもとテレビ、ミニ鏡台、タンス、写真、教本など馴染みの品が持ち込まれている。定期的な空気の入れ替えや必要に応じた加湿器の利用し健康面にも配慮している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム優海一ゆかいー
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草市御所浦町御所浦3916-6
記入者名 (管理者)	石田芳子
記入日	平成 21年 1月 24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『ゆとりある、ゆかいな生活のために』smile-笑顔で、slow-ゆっくりと、safety-安全に を基本理念に掲げています。	○	職員間では理念を念頭に置き毎日の勤務に心がけて活きたいと思いがあるので努力する必要があると思っている。また、地域にも普及していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	目に付く場所に掲示し毎朝、申し送り時に基本理念を唱和していることで念頭に入れ、日頃の勤務の中で笑顔や、利用者のペースでと動く等の心がけをしている。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	面会の方や来訪者によく見える場所に、日頃のホームの様子や利用者の状況を手作り新聞で紹介している。遠方に居る家族にも担当職員から手紙や写真を送ったり、電話で報告して安心していただいている。家族の方より「入所されている人が笑顔で明るいのは職員のかたが笑顔でいるからよね」という言葉を頂き、さらに理念の重要性を感じている。	○	もっと地域や家族に理念の普及をしていくために、広報誌を作成しその中に理念や方針を明示するなどしてわかりやすくしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日頃より隣近所の方への挨拶や声かけを心がけている。また、行事等でも接する機会を多くしている。	○	身近な馴染みの付き合いを大切にしていき「認知症になっても案じて暮らせる場所がある」という大きな存在になれるよう日々の中で努力していきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	敬老会、地域の祭り、小学校の運動会等に利用者連れて行き、地元の人との交流を多くしている。また、地域の清掃作業にも利用者と共に参加するなど地域と共生する事を心がけている。	○	計画的に行事参加できるように努めていきたい。また、自治会や地域の方々の協力依頼を行っていき、また、入居者も職員も楽しみながら行事等に参加活動出来るように配慮していきたい。ボランティアの課題も努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の自発性を尊重して地域の高齢者とも交流するように努力している。	○	「認知症になっても安心して暮らせる場所」から「安心して暮らせる地域」へと大きな存在になれるよう地域との輪を広げていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	認知症の正しい理解と自立支援へのケアについて、日頃から話し合うと共に自己評価を行うことでGHケアの基本的な考え方が職員に理解、浸透することで質の向上が図れていると思っている。	○	課題を認識して一つずつ改善して、入居者が安心して暮らせるよう支援していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行っている。民生員の方や警察署、消防署、老人会の方の参加で貴重な意見をいただきホームの運営に活かしています。	○	地域に対してホームが出来ること、役割について検討して充実した体制作りを行い連携をとっていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員(市町村の職員)の方には「あまくさ・認知症を地域で支える会」の情報提供などで交流しています。また、問題等が発生した場合はその都度指導と助言を頂いています。	○	当ホームの課題を担当者に相談、助言していただくよう日頃から交流を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在一人の方が地域福祉権利擁護事業を利用されています。また、家族の中で利用された方が良い状態だったので、社会福祉協議会の職員に相談して申請・利用されるようになった家族の方もおられます。	○	市町村や地域包括支援センターと連携をとり地域福祉権利擁護や成年後見制度について情報収集を行っていきたい。また、ホームの広報誌を作成し家族への啓発を図りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の尊厳と安全を守ることが職員の使命だと思っていますので、身体的、心理的、性的、ネグレクト等の虐待は一切行っていません。	○	介護者の倫理、職務についても勉強する機会を作っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭と文書による説明を十分行っています。また、解約の際も預かり金の精算、所持品の引き渡し等確実な説明と書類を交わし疑問が生じないように配慮しています。	○ 法改正などは再度家族に説明する場合があるので、面会時や自宅訪問など家族と連絡を密にするように努めたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から安心して暮らせるように入居者との会話は大切にしています。会話の中で貴重な意見があることも理解して耳を傾けるようにしています。	○ 入居者様の意見が気軽に聞ける雰囲気を作りたいと思っています。また、家族にも伝えその思いを運営に反映できるように努力したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日頃の様子や健康状態、受診状況、を伝えています。また、薬の変更等も伝えて納得していただいています。毎月の利用料請求時に担当職員からのお手紙や預かり金の利用明細もコピーして確認していただいています。職員の担当が変更になった時も連絡するようにしています。	○ 家族へ送付した利用明細やお手紙に目を通していただけない時もあり、再度説明する事もありますので、見ていただく工夫をしていきたい。今後も家族との交流の一つとして手紙や広報誌を活用していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に「意見箱」を設置しています。また、家族の面会時に貴重な意見を伝えられたときに、職員同士の申し送りノートを活用して伝えられるようにしています。気軽に話せる信頼関係作りを心がけています。	○ 家族の面会時にはいつでも話し合いができるように努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員のミーティング時には運営者も参加して意見交換を行っています。互いに意見や提案のしやすい関係作りを図り十分な検討を行いながら解決を図っています。	○ 運営者や管理者が決定し指示を出すのではなく職員同士で話し合い、自発性を発揮できるように配慮していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様、家族の状況により出来る限りの調整ができるように対応しています。離島という難点もあるが島以外の病院受診や入院している家族の面会にも管理者や看護師が付き添う等可能な限り調整しています。	○ 家族が入居者様の状態を知っていただくとともに、家族のふれあいや絆を大切にするために受診の付き添いや自宅への外出・外泊などの支援をしていただき、ホームに任せっきりとならないように協働していただいていますので、今後もより一層強力していただくように配慮する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3名の職員の退職があり入居者、家族には不安を与えたことと思います。できるだけ入居者様にダメージが無いよう職員間で明るく、冷静な対応を行っている。	○ いかなる理由の離職でも入居者様に支障がないよう労務上の充実を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の育成計画の充実を図るため、認知症の研修参加も働きかけている</p>	<p>○</p> <p>外部研修の参加が少ないのが現実で職員の勤務意欲が低下し着ないようにメンタルケアにも配慮していきたい。また、職員の定着のための努力を行い、今後は段階に応じた育成を図っていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会への参加も行き訪問あるいは連絡を行い情報の共有を心がけている。また、他の事業所の介護支援専門員との交流も行きより良い支援を提供できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>GHの職員同士の勉強会だけでなく、他のグループホームを訪れお互いの違う点を観ることも参考になると思われる。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各職員の事情を踏まえ、働きやすい環境作りに努めていると共に職員の意見に傾聴し可能な限り答えを出すよう努めている。また、同系列の職員との食事会も開いてストレス軽減に努めている</p>	<p>○</p> <p>ストレスを感じさせない職場づくりに努めていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>命を預かる責任と信頼関係を築きあげる、誇り有る仕事に従事していることを思い毎日の励みにしています。</p>	<p>○</p> <p>職員が創意工夫し、自ら楽しく遣り甲斐をもって仕事に従事できる取り組みに努めていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には自宅訪問や利用中の施設に訪問して、信頼関係を築くと共に安心して入居して頂けるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>入居希望及び申し込みがあった場合は現在の状況・家族の思い等を把握出来るよう担当ケアマネ等の関係者と情報交換を行っていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>困っている状況を確認しながらホームで出来る対応を考えていきます。また、本人がホームに馴染まれるまで家族との連絡を密にとってお互いの信頼関係を築いている。</p>	<p>○</p> <p>今後のより良い支援を提供できるように利用されていた施設や医療機関から情報収集に努めるようにしたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にGHの役割や支援内容を説明し、必要時は他の事業所や担当の介護支援専門員との連絡、調整を図りできる限りの相談にのっている。	○	強く入居希望されるが、その時にはまだ他のサービスが利用できる状況のこともあるので、それをケアマネと相談しながら検討するようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに自宅や施設への訪問で顔馴染みとなり、信頼関係を築くようにしている。また、ホームの見学と兼ねて一日体験を実施し、ホームの雰囲気を理解して入所という形をとっていただいている。	○	入居時は不安や緊張も大きいので健康面にも影響がでやすい。家族の許す限り面会等の相談もしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護しているのではなく「共生」を心がけ一緒に生活しています。時には炊事や畑仕事のアドバイスを受けたり、家族の心配をさせていただき心癒されたり、学ぶことも多く支え合う関係を築いています。	○	慣れ親しむ中で言葉使いや礼儀を忘れないようにして、家族同様の絆を大切にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	う家族と共に支援していく重要性を感じ、病院受診等の機会を持っていただき家族との絆を大切にしています。	○	家族の存在と家族の愛情が一番のケアであることを伝えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日やホームの行事には必ず家族への参加をしていただき協力してもらっている。また、面会時には居室でゆっくり会話が出来るように配慮している。遠方におられる家族との絆も大切にするため、手紙や写真を送って状況を伝え良い関係を維持している。	○	遠方におられる家族との関係を密にするよう努力していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会時にはプライベートな時間としてさり気ない心使いを心がけている。行事等の参加への働きかけも大事にしている。	○	馴染みの関係がいつまでも続けられるような雰囲気づくりをしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出来る限り揃って食事ができ、「いただきます」が言えるように努めています。また、共同作業で関わり合いを多くもてるように努めているが、その中でトラブルもあり職員が間を取り持つこともあるが、利用者が自ら謝ることもあり自然にお互いの存在を尊重できる気持ちをもてるようになっていきます。	○	入居者同士が助け合い分かち合う気持ちを引き出せるような場面作りをしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関入院で契約終了された方は町内でお会いした様子を伺ったりしている。	○	退居の際は利用者・家族が困らないように支援していき今までの関係が継続できるようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちをくみ取るようにしています。何気ない会話の中で把握する事もあるので、職員同士で話合っ本人の意向を検討することもあります。	○	会話の中の言葉を傾聴し大切にしていきたい。また、本人の思いが叶えられない時の職員の対応も勉強していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの生活歴の聞き取りや情報の収集を行っている。また、日頃の会話の中からも情報収集を行うように努力しています。	○	その人らしさを引き出せるように、本人や家族と話合っしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の流れに沿った経過記録を行い、健康面では排泄状況や血圧、食事など総合的に把握が出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のできること出来ないことを把握し介護計画に繋げています。また、入居時に主治医の意見も組み入れるようにしています。	○	計画立案時や会議に入居者が参加して本人の意見が反映できるよう努力していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行い、状態変化時にはその都度見直しを行っている。	○	介護計画の定期的な見直しを充実したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	客観的な記録とにならないように努め、具体的な内容を把握して状況変化も記録するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体調異変時における速やかな往診と医師の指導により、適切な対応ができています。	○	離島の公立の診療所ということもあり、週末の急変時の対応が出来ないので、少しの変化や細かいことでも勤務中に相談するようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日頃から地元消防団、民生委員、老人会、自治会との交流を図り、情報の共有や訓練の協力も得られている。	○	警察署にも万が一の事態に生じた場合を考慮して、支障のない範囲での情報を報告し必要時への依頼を行っている。地域の福祉関係との交流も広げ、今後の地域で支える高齢化社会作りにおいて連携を図っていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日頃から各居宅支援事業所のケアマネとの交流も広がっている。	○	今後も専門職者との交流を多くしていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の地域包括支援センターの職員は市町村の職員であるが、今のところ具体的な問題発生はしていない。	○	4月から地域包括支援センターが委託事業になり社会福祉協議会の担当になるので、交流を継続して相談等の指導をうけていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は市の診療所となっているが、週1回か2週間に1回の往診を受けている。入居者の一人は家族の協力で協力医療機関への受診を定期的に行ってもらっている。主治医や薬局などの連携もよく、適切な指示をもらっていると思う。	○	ホームでの様子を出来るだけ詳しく報告して、具体的な改善ができるように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	異性を		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療機関の看護師とは連携をとって日常の健康管理の相談にのってもらっている。	○	同地域の特別養護老人ホームの看護師との連携をとっていきたいと思っている
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、定期的に看護師が面会を行い、経過報告を行いながら早期退院の受入体制をとっている	○	出来るだけ家族、医師と話し合い早期に退院できるように連携していきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に本人及び家族の重度化した場合や終末期の希望を確認してそれに応じた体制についても説明を行っている。また、終末期には主治医、家族と十分な話し合いのうえ、本人、家族の要望を聞き、今後のホームにおける支援について同意を得るようにしている。	○	医療面については今後医療機関の協力も得ていきたいと思っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まず本人の気持ちや家族の気持ちを尊重してまた、その都度、意思確認をしながら家族や主治医に本人の気持ちを伝えるとともに家族の要望、主治医の助言や指示を頂きながら対応している	○	入居者の状況やホームの状況も変化していくのでその都度、ホーム内で出来ること、出来ないことの体制を検討していきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の納得した上で対応していきたい。また、家族とも十分話しあう機会も設けて本人の住み慣れた環境を維持できるようにしている。	○	必要な情報を的確に提供できるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや接し方には十分な配慮をしている。記録にはインシヤルで書いたり、また、訪室時などにはノックをするなどプライバシーの保護にも注意している。	○ 言葉のかけ過ぎやタイミングに配慮するとともに本人のペースを待つことも心かけるようにしていく。また、職員の意識向上を目指していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者と同じ目線で話を傾聴し、わかりやすい言葉を使うようにしている。意思表示の困難な方には言葉を選びながら、複数の選択肢を提供するなど念入りに観察を行い意思の確認をしている。	○ 個別に合わせた対応ができるように努めたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から自分のペースで自由に過ごして頂けるようにしたり、気を遣わない雰囲気をつくったりしている。食事や就寝時間など職員の押しつけではなく本人の意思を尊重している。	○ 自分の意思で家事をしたり役割ができるように働きかけそれが習慣になり、自発性や協調性が育まれるように努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常日頃から見出しなみへの配慮を行っている。また、ご家族からも本人の好みについても気配りされている。理美容については馴染みのお店を利用して頂くなど関係を大切にできるようにしている。	○ 本人の意思で買い物ができるように支援していきたい。また、家族の協力で着慣れた衣類の持参や馴染みのお店への買い物なども支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、味付け、盛りつけ、配膳・下膳など入居者と一緒に行っている。できるだけみんなと一緒に「いただきます」の言葉を言って食事ができるようにしている。職員も同じ食事を戴き個人に合わせた調理の工夫を行っている。	○ 入居者の得意料理が披露できるよう体制を支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	普段の会話から好みの飲み物を提供できるようにしている。お酒を好まれる人もいて、毎晩、夕食に提供していた。また、喫煙者もいるので喫煙できる場所を提供している。時には饅頭を食べたいと言われるときには一緒に買い物に出かけるようにしている。	○ 入居者とおやつを一緒に作ったりする時間を確保できるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	タイミングよくトイレへの声掛けを行ったり、日中と夜間では、下着や紙オムツなどの使い分けをして、個別に対応するようにしている。また、皮膚の状態を観て手作りの布パットを作り使用してもらうなど工夫している。出来る限りトイレで排泄する習慣も心かけている。	○	ゆっくり排泄できる環境を作ったり通気性の良いパット類など皮膚の衛生管理にも配慮していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望通りの入浴を提供している。また、入浴剤を使うなど見た目や匂いなどで入浴が楽しく気持ちよく実施できるように促している。何日も入浴拒否が続いている方も、優しい言葉掛けで入浴に繋がったりと、職員の工夫ができています。	○	夜間の入浴希望時にも対応ができるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝の申し送り時に心身の状態や睡眠状況の把握に努めている。必要時は日中の休息や仮眠の調整を行っている。また、昼夜逆転しないように生活のリズムを整えるようにしている。夜間眠れない方にはお茶を出したり、話をして心落ち着いてもらうなどの支援もしています。	○	ゆっくり安心して入眠できるような雰囲気作りに努めたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が好きな人、畑仕事が好きな人、ものづくりが好きな人それぞれの役割に応じた支援ができています。	○	今後はレクリエーションを多くして楽しみや意欲向上に繋げていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたいとの要望があれば、職員が同行して支払いに立ち会い金銭の確認を行っている。お金の所持については、家族との話合いで決めている。本人と家族の意向を尊重できるように支援している。	○	お金の使用については能力に応じて支援できるように協力していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつでも天気の良い日には外出したり、散歩にでかけたり、畑に行ったり、日常的に行われている。また、ドライブや買い物、銀行などの支援も行っている。	○	計画的に買い物やドライブ、又は、全員での外出を実施できるような支援体制ができればと良いと思う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とのふれあいが入居者にとって一番大切で有ることをお知らせしており、町の行事への参加や花見に参加していただき家族と一緒に外出する機会をつくっています。	○	離島という特殊な地域なので家族と一緒に外出や外泊の機会ができる支援体制をつくりたい。温泉などにも一緒にいけるように働きかけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった時は本人に変わり会話を楽しんでもらっている。内容が聞き取りにくいときは職員が変わり内容を伝えるようにしている。また、手紙や年賀状を書いて頂き、家族が喜ばれ次回の手紙を待っている方もおられます。	○	手紙を書くのが困難な方は絵手紙や貼り絵、塗り絵などの支援を行い家族との絆を大切にしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の面会も多く馴染みの関係ができており、一緒にお茶を飲んだりおやつを食べていただいたり、いつでも気軽に寄ってもらい、本人とのひと時を楽しく過ごしてもらっている。	○	もっと知人や近所の方が寄ってお茶を飲んでいただくよう働きかけたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員と入居者は信頼関係を築いておりどんな、状況でも身体拘束は行っていない。全職員が認識しており随時考えながらケアしている。	○	夜勤者1名での対応が困難な場合は管理者や他の職員が対応する体制作りを検討していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出入りが出来る環境である。玄関には出入り時にセンサー音が鳴るようになっている。玄関から外に出られても把握ができ、慌てずに対応できている。最近、外に出られてもしばらくすると帰って来られるなどすっかり馴染まれている。職員は行動パターンを把握しているので、自由な暮らしを支えている。	○	車の出入りは少ないが段差が多いので事故に注意する見守りをしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は出勤時の挨拶を交わすことで所在確認を行っている。また、外で過ごしている人に対してはホーム内の窓から確認を行っている。居室内で過ごしている時間が多い方は時間毎に訪室して様子を把握している。	○	職員同士の報告を密に行いながら連携をとっていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	工具用品など危険な物は物置に管理している。入居者同士は道具等で危険な取り扱いをする人はおられない。	○	包丁など使うときに細心の注意をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム内は観察しやすい設計なので見守り重視を行っている。起床時の転倒がある方はセンサー対応により危険防止を行っている。与薬等は職員の声掛けで飲み忘れがないように最期まで確認するようにしている。窒息等も食後すぐに臥床するのではなく時間をおいて休んでいただくようにしている。	○	消防団とも定期的な交流を図り防災体制の強化に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署による救急法の講習を受けたり急変時は緊急連絡網によりすぐに対応出来る体制作りができています	○	利用者の急変時は入院設備のある医療機関に搬送しないと行けないので、連絡調整を密にしていきたい。また、新職員に対しても救急法の研修を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団や区長、地域の方と協力できるよう日頃の交流を図っている。防災無線も対応して地域の情報も把握できるようにしている。	○	今後も地域とともにホームの安全が保てるよう連携を強化していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面家に来られたときや必要時は電話にて諸問題について改善策の相談、報告を行い家族とともに今後の支援について話あっている。	○	家族の面会がいつあっても良いように話し合いや報告ができるように日頃から職員同士が情報交換をするようにしたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さい変化も見過ごさないように観察して、報告してすぐに受診できるような体制を行っている。	○	全職員が観察したことを報告し情報の共有に努めていくようにしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬箱に現在服用している薬を明示して薬の把握に努めている。変更時は個人記録に記入して全職員が把握できるようにしている。また、薬に関する疑問時はいつでも相談できるよう薬局や医師との連携が取れている。	○	症状の変化を見ながら主治医と連絡をとり、指示をえて薬の調整を相談したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から水分補給や繊維のある食材や乳製品をで提供できている。また、運動も日課として参加いただいている。必要時は主治医に相談して緩下剤の指示を得ている。	○	運動不足になりがちなので毎日の体操や活動に参加できるように声掛けに等の工夫していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は必ず口腔ケアを行ってもらっている。本人の能力を發揮して出来ていない部分を介助するようにしている。義歯は毎夕、洗浄液に浸し、週1回はハイター消毒して清潔保持に努めている。口腔内のトラブルは歯科受診して解決している。	○	口腔内のトラブルがあっても受診できない方がおられるので、訪問歯科についても相談もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い、水分補給も1000cc以上は摂取できている。調理の工夫もされて個別に応じた刻み食も提供している。近くの特養ホームの栄養士の協力で1日はカロリー計算が出来ている食事を出している。	○	食事の偏りがないようにメニューの工夫もしていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	浴室やトイレの掃除には酸性水を使用している。また、テアいしゅーブル拭きも酸性水を使い感染予防に努めている。室温や湿度も記録して換気にも気を遣っている。外出前後や職員の勤務前にも手洗い、うがいを励行している。また、受診時にはマスク使用などで予防している。	○	感染状況の把握や表情の観察で速やかな対応ができるようにしたい。
79	んかんさきにも 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や冷蔵庫の掃除には酸性水を使用している。食材は使い切りしたり買い置きが少ないようにしている。新鮮な食材を調理するように配慮している。		消毒や定期的な冷蔵庫内の掃除と賞味期限確認の充実にしていきたい。
う鳥1回の (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関先は垣根が無く見守りは必要だがオープンに気軽に立ち寄って頂けるようにしてある。	○	玄関先の階段には十分注意して手すり等を使うよう心がける。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く採光も十分入り、利用者にとっては快適な場所になっている。居室にいるよりもホールにいる時間が長くて窓から見える畑や花壇が入居者の心を和ませている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が特定の方の場所にならないように椅子の位置に気をつけている。また、喫煙場所も職員とのコミュニケーションの場所になったり利用者同士の会話の場所になったりしている。玄関先にも椅子を置き思い思いで過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明では馴染みのダンスや物をもって頂くように説明しているが、使えないと思われダンス等も購入している状況である。家族の写真や教本を持ってこられ毎日の念仏を唱えている方もおられ自分の安心出来る居室として過ごしている。	○	家族にもっと馴染みの物を持っていただくように配慮したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気や天井等の出窓で換気をしている。また、居室のドアの開閉で居室の室温が調整できるので工夫している。冬の間は乾燥に注意しているので加湿器の利用を心がけている。	○	入浴時は脱衣所の温度管理に留意していきたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下、玄関にはすりが設置してある。その他手すりが必要な場所には母体が福祉用具の会社なのでいつでも対応できるようになっている。	○	センサー音に頼らず職員の目によって確認するよう安全に配慮したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛けの内容やタイミングと手出しのし過ぎに注意している。トイレの場所は照明をつけたりして、一人で行動できるようにしている。また、居室入り口にはエy表札をかけ自分の部屋だとわかるようにしている。	○	職員の一方的な話しかけでなく入居者の意思疎通ができるように働きかけている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先は椅子を置き風景を眺められるようにしている。時折船の出入りも見えて長閑な環境が心を和ませている。	○	花を玄関先に置き四季折々の花を見られるように工夫したい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

離島という難点はあるが、利用者にとっては何も問題なく長閑に過ごすことができる環境である。潮の香りや船の行き来する音、自然な風景が目の前に広がって懐かしい気持ちにさせてくれる。その環境で生活している入居者は、ホームの基本理念である『ゆとりある、ゆかいな生活の為に』 smile-笑顔で、slow-ゆっくりと、safety-安全に。を理解されているかのように明るく生活されている。自然な環境がこれからの生活の生きる意欲につながっていけるよう職員一同は協力していこうと思っています。